

第 2 章

個別目標の進捗状況

「環境基本計画」に掲げている 15 の個別目標の達成状況、市の取組みの評価、市民・事業者の活動・参加状況について報告します。

1 自然を身近に感じられる “まちづくり”

1-1 樹林地や農地を守り、育てる [個別目標①]

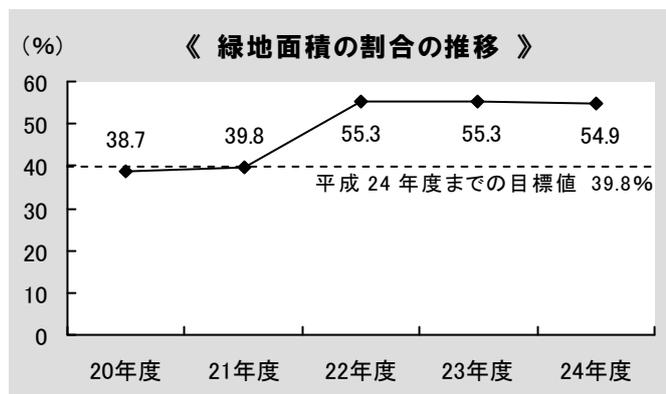
目標の達成状況と現状

■ 環境指標の目標達成数: 1/1

環境指標	目標値	平成 24 年度	評価
緑地面積の割合	39.8 % (緑の基本計画)	54.9 %	

市内の緑地面積の割合は、合併前の平成 21 年度に目標値 (39.8%) を達成し、合併後はその割合がさらに増加しています。

平成 24 年度現在の緑地面積割合は 54.9% で、市域の半分以上を緑地が占める良好な環境が維持されています。

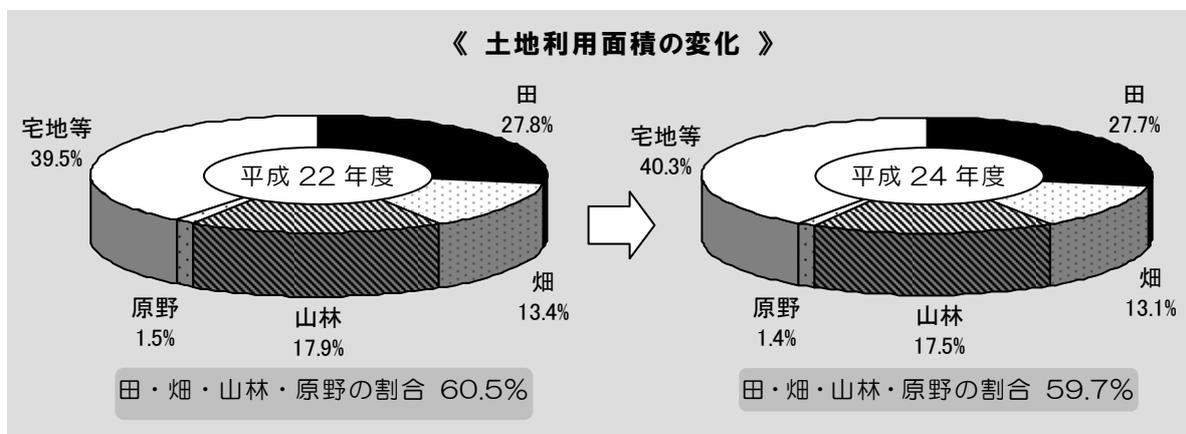


備考) 平成 22 年度以降は合併後の市域の数値です。

■ 土地利用の変化

平成 24 年度現在、田・畑・山林・原野を合わせた面積は市域の 59.7% (73.9km²) を占めていますが、合併直後の平成 22 年度と比較すると、その割合は 2 年間で 0.8 ポイント減少し、宅地等に置き換わっていることが分かります。

現在の緑豊かな環境を将来にわたって継承していくためには、今後も継続的な取組みの推進が求められます。



平成 20～24 年度 of 取組み・評価

■ 樹林地・草地などの保全

市では、樹林地の伐採抑制や植林に関する指導・広報を行っています。

また、里山の保全・活用や市民参加のしくみづくりについては、具体的な施策には至りませんでした。今後も引き続き市民活動団体への支援を検討していきます。

■ 農地の保全

市内に約 465ha（2010 年農業センサス）あった遊休農地[※]対策として、耕作放棄地再生利用事業を実施し、5 年間で 7ha が解消されました。

農家の担い手不足対策として、基礎的な農業知識を習得させる農業研修を毎年 1 回以上実施し、農業版ハローワークへの登録を促進しました。

農業振興の一環として、平成 21 年度に策定した「印西市農産物ブランド化戦略」に沿ってにんにく、そらまめ、とうがらしなどのブランド化を推進しました。平成 23 年度には「印西市地産地消推進計画」を策定し、シンポジウムの開催や各種 PR 活動により生産意欲の向上を図ったほか、大規模農家と連携し、学校給食における市内産農産物の利用拡大に向けた検討をはじめています。

■ 樹林地や農地とのふれあいの場の創出

市民が樹林地や農地にふれあえる場として「草深の森」と「ふるさと農園」を提供しています。

草深の森では、ボランティアとの協働による整備作業（草刈り、枝打ちなど）を毎年実施しており、多数の参加をいただいています。

また、稲刈り体験などを通じて子どもたちと農家の交流を図っており、自然を生産基盤とする農業への理解を促進しています。

《 草深の森・ふるさと農園 位置図 》



市民・事業者の活動・参加状況

- 草深の森整備作業への参加者は、5 年間で延べ 215 名となりました。
- ふるさと農園の利用者数は、5 年間で延べ 994 名となりました。
- 産業まつりには、毎年約 30,000 名の方々に来場いただきました。

1-2 さまざまな生き物を守る [個別目標②]

目標の達成状況と現状

■ 環境指標の目標達成数: 1/1

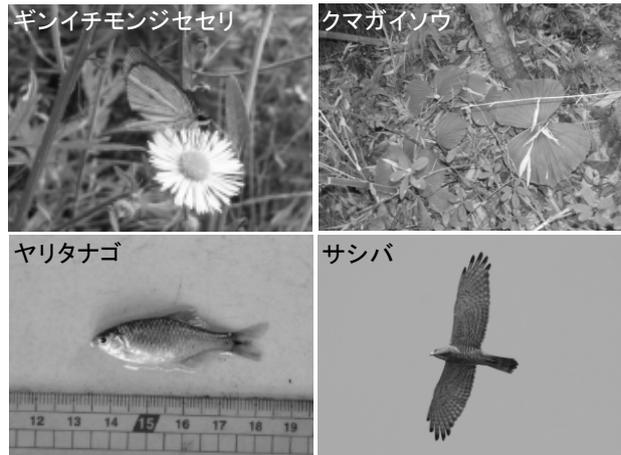
環境指標	目標値	平成 23 年度	評価																																				
生き物の 生育・生息種数	平成 18 年度時点の確認種数を維持	平成 23 年度時点の確認種数																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>分類群</th> <th colspan="2">確認種数(希少種)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>植物</td> <td>679</td> <td>(30)</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">動物</td> <td>哺乳類</td> <td>7 (1)</td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>78 (38)</td> </tr> <tr> <td>爬虫類</td> <td>6 (5)</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>6 (4)</td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>129 (13)</td> </tr> <tr> <td>魚類</td> <td>14 (3)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">印西市自然環境調査報告書 (平成 18 年 3 月)</p>	分類群		確認種数(希少種)		植物	679	(30)	動物	哺乳類	7 (1)	鳥類	78 (38)	爬虫類	6 (5)	両生類	6 (4)	昆虫類	129 (13)	魚類	14 (3)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>分類群</th> <th colspan="2">確認種数(希少種)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>植物</td> <td>803</td> <td>(36)</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">動物</td> <td>哺乳類</td> <td>9 (1)</td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>102 (53)</td> </tr> <tr> <td>爬虫類</td> <td>11 (10)</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>6 (4)</td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>387 (29)</td> </tr> <tr> <td>魚類</td> <td>24 (10)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">印西市自然環境調査報告書 (平成 24 年 3 月)</p>	分類群	確認種数(希少種)		植物	803	(36)	動物	哺乳類	9 (1)	鳥類	102 (53)	爬虫類	11 (10)	両生類	6 (4)	昆虫類	387 (29)
分類群	確認種数(希少種)																																						
植物	679	(30)																																					
動物	哺乳類	7 (1)																																					
	鳥類	78 (38)																																					
	爬虫類	6 (5)																																					
	両生類	6 (4)																																					
	昆虫類	129 (13)																																					
	魚類	14 (3)																																					
分類群	確認種数(希少種)																																						
植物	803	(36)																																					
動物	哺乳類	9 (1)																																					
	鳥類	102 (53)																																					
	爬虫類	11 (10)																																					
	両生類	6 (4)																																					
	昆虫類	387 (29)																																					
	魚類	24 (10)																																					

※ 平成 24 年度は調査を実施していないため、平成 23 年度の結果で評価しています。

平成 23 年度に実施した自然環境調査では、植物 803 種、動物 539 種が確認され、平成 18 年度の確認種数を上回りました。絶滅が危惧される希少な種も数多く確認されています。

市内に多く残る「里山」は、樹林、農地、水辺などがモザイク状に入り組んだ環境で、多様な生態系を育む環境として注目されています。

《 市内で確認された希少種 》



平成 20～24 年度の取組み・評価

■ 生き物の生育・生息環境の保全・創出

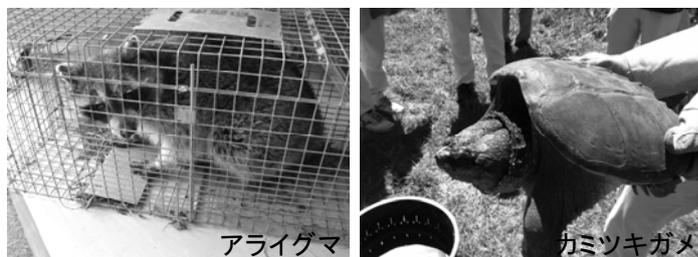
市では、県や周辺自治体と協力して水生植物の再生事業や野生動植物の保全、外来種の移入対策などに関する普及啓発を行っています。

水生植物保全活用事業では、絶滅が危惧される水生植物ガシャモク※を市内の小中学校で育成し、ミニ手賀沼※への植栽も実施しました。



ガシャモクの育成

外来生物※対策としては、広報等を通じた情報提供と普及啓発を行っており、カミツキガメやアライグマなどの特定外来生物については、市民からの通報に応じて防除も実施しています。



印西市で捕獲された特定外来生物

■ 調査・観察会などの実施

市では、市内の自然とそこに生育・生息する生き物たちを知る機会として「自然探検隊」を継続的に実施しています。平成20年度から24年度までの5年間で18回開催しており、浦部川や草深の森、巨樹・古木などさまざまなテーマを設けたことで、子どもから大人まで多くの方々に参加いただくことができました。

また、市民参加型の生き物調査として「生き物モニタリング調査」（平成20年度で終了）や「生きもの調べ子どもレポーター」を実施しています。市民参加型とすることで、調査の継続性を確保しながら参加者の環境保全意識を高めることができる取り組みで、特に平成24年度に実施した「生きもの調べ子どもレポーター」は、将来の印西市を担う子どもたちに対する環境保全意識の向上につながりました。

市民・事業者の活動・参加状況

- 自然探検隊を5年間で18回開催し、子どもから大人まで延べ376人のみなさんに参加いただきました。

《 市内で確認された特定外来生物 》

分類群	特定外来生物
植物	ナガエツルノゲイトウ アレチウリ オオフサモ オオカワヂシャ
動物	哺乳類 アライグマ 爬虫類 カミツキガメ
両生類	ウシガエル
魚類	チャネルキャットフィッシュ カダヤシ ブルーギル オオクチバス(ブラックバス)

【出典】印西市自然環境調査(平成23年度)
備考)カミツキガメは市民通報により確認。



自然探検隊の様子



生きもの調べ子どもレポーター用紙

1-3 親しみのある水辺をつくる [個別目標③]

目標の達成状況と現状

■ 環境指標の目標達成数：設定なし

印西市には 19 の一級河川（利根川水系）があり、印旛沼や下手賀沼の周辺は一部が県立印旛手賀自然公園地域に指定されています。また、防災調整池※や用水路、湧水※なども多数点在し、千葉県内でも特に水辺環境に恵まれた地域と言えます。

平成 20～24 年度の取組み・評価

■ 水辺環境の保全・創出

市では、市内を流れる主要河川において年 4 回の水質調査を実施しており、水質の把握・監視を通じて水辺環境の保全に寄与しています。

平成 23 年度に実施された亀成川上流部の河川改修工事では、多自然型工法※が積極的に採用され、水辺を生育・生息場とする生き物たちとの共存が図られました。

《 印西市と周辺の主な河川・湖沼 》



■ 水辺とのふれあいの場の創出

竹袋調整池とその周辺の維持管理のため、NPO との企画提案型協働事業を毎年実施し、地域住民と花畑づくりや除草等の取組みを継続的に実施しました。

また、自然探検隊を浦部川や調整池で開催し、水辺とのふれあいの場を提供できました。

市民・事業者の活動・参加状況

● NPO による企画提案型協働事業として竹袋調整池のゴミ拾いや除草などを実施し、水辺の憩いの場を提供することができました。

また、平成 20 年度には発作でソメイヨシノの植樹を行いました。

● 手賀沼水環境保全協議会の事業として、手賀沼流域河川において市民参加型の水質調査や湧水調査を継続的に実施してきました。

コラム ★ 手賀沼流域フォーラム 印西市地域企画

手賀沼流域フォーラムでは、流域各地で地域の市民活動団体が企画し、水質調査や自然観察会、歴史・景観散策会などを行う「地域企画」が開催されています。

平成24年度の印西市の地域企画は、4つの市民活動団体による工夫をこらしたイベントが開催されました。

夏休み水の旅～手賀沼船上観察と手賀排水機場見学

実施団体：印西 水と暮らしを守る会

開催日：平成24年7月25日（水）

参加者数：15名

◆手賀沼を船上から観察、開拓や治水等の歴史学習

亀成川 生きもの観察会

実施団体：亀成川を愛する会

開催日：平成24年8月5日（日）

参加者数：40名

◆前年の保全再生作業により戻ってきた生き物の観察

里山散策会-初秋の里山めぐりと和泉の獅子舞-

実施団体：印西ウェットランドガイド

開催日：平成24年9月22日（土）

参加者数：36名

◆浦部川谷津歩きと生き物観察、伝統の獅子舞見学

ドキュメンタリー映画「地球に優しい生活」上映会

実施団体：北総エコの木の会

開催日：平成24年11月18日（日）

参加者数：78名

◆合唱やクイズ、映画上映、パネルセッション等



連携プレーで魚を捕まえました
(亀成川 生きもの観察会)



谷津の斜面林で自然観察
(里山散策会)

コラム ★ 印旛沼・手賀沼の水質

印旛沼・手賀沼は、昭和30年代以降の都市化の影響で水質が悪化しました。

これまでも水質の改善に向けた様々な取組みが行われてきましたが、COD濃度では平成23年度は印旛沼がワースト1位、手賀沼がワースト2位でした。生活排水等の負荷削減をさらに強化し、美しい水辺を取り戻す対策が求められています。

平成23年度 全国湖沼のCOD※濃度ワースト5

順位	湖沼名	COD年平均値
1	印旛沼 (千葉県)	11 mg/l
2	手賀沼 (千葉県)	9.3 mg/l
3	伊豆沼 (宮城県)	8.8 mg/l
4	常陸利根川 (茨城県)	8.5 mg/l
5	長沼 (宮城県)	8.2 mg/l

出典：環境省

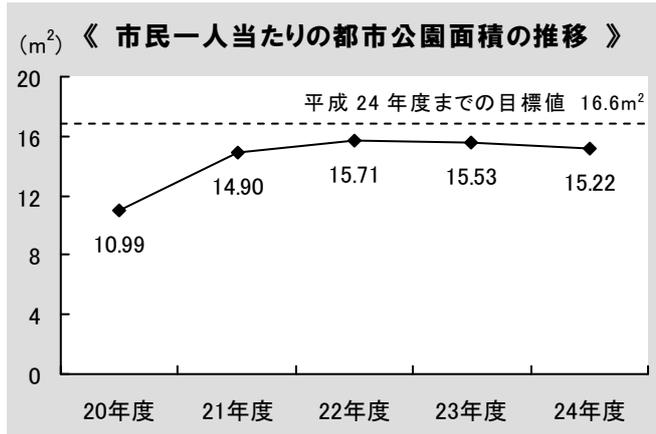
1-4 まちの緑を増やす [個別目標④]

目標の達成状況と現状

■ 環境指標の目標達成数:0/1

環境指標	目標値	平成24年度	評価
市民一人当たりの都市公園面積	16.6 m ² (緑の基本計画)	15.22 m ²	

平成24年4月現在、印西市には130ヶ所の都市公園が整備されており、合計面積は140.75haあります。市民一人当たりでは15.22m²となり、計画策定時(8.55m²)や改訂時(10.99m²)から大幅に増加していますが、緑の基本計画に定める目標値は達成できませんでした。



《市内の都市公園》

分類	公園数	主な公園
県立公園	2	北総花の丘公園、印旛沼公園
総合公園	1	松山下公園
運動公園	1	本埜スポーツプラザ
地区公園	4	印旛中央公園、印旛西部公園、牧の原公園、松虫姫公園
近隣公園	11	浅間山公園、多々羅田公園、浦幡新田公園、西の原公園、草深公園、大塚前公園、木下万葉公園、松崎台公園、萩原公園、滝野公園、高花公園
街区公園	86	新山児童公園、木下東1丁目公園、小倉台西街区公園、西の原北街区公園、若萩の丘公園、いにはの森公園、かけっこ公園 など
都市緑地	25	小林北1～3号緑地、小林浅間1～5号緑地、小林宿1号緑地、小林大門下1～5号緑地、木刈1号緑地、大塚1号緑地、松崎台1～5号緑地、舞姫緑地、若萩緑地、平賀学園台緑地



牧の原東街区公園



木刈1号緑地

平成 20～24 年度の実績・評価

■ 公用地内の緑化

平成 22 年に開園した松山下公園は、体育館や広場等の整備を進めながらも既存の自然環境を最大限に活用し、緑豊かな総合公園を実現しました。また、公園内の植栽にはケヤキやクスノキなどの環境木※を多く採用しています。



松山下公園に植栽されたケヤキ
ケヤキは大気浄化能力が高く、風にも強い
ため、道路の緑化によく利用される樹木です

■ 民有地内の緑化

住宅地に緑を創出するため、宅地開発事業者と都市緑化法※に基づく協定を結び、協定区域内の緑化を推進しているほか、印西市開発事業指導要綱※に基づき、戸建て住宅の各区画に生垣等の植栽を行うよう要請しています。

また、事業所や商業施設の開発時には、開発面積の 5%以上の緑地を確保するよう指導を行っています。

■ 緑化推進のための人づくりと情報発信

千葉県立北総花の丘公園では定期的に「緑の相談所」を開設しており、ガーデニングや花の栽培方法などについて専門家のアドバイスを受けることができます。市では、緑化推進の一環として広報等を通じて同園の情報を発信しています。

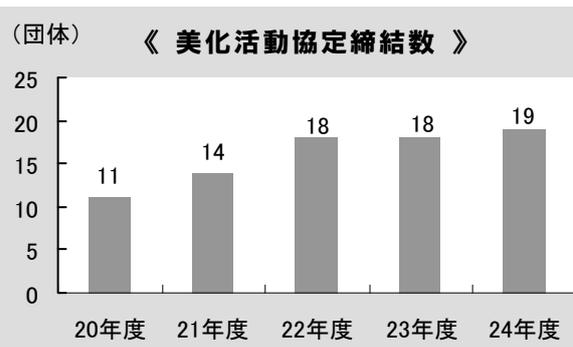


北総花の丘公園では、草花の手入れなどの講習会も開催されています

市では、身近な公園をきれいで安全な場所にするための美化活動にご協力頂ける団体を募集し、ほうきや熊手、草刈鎌などの用具を提供しており、毎年多くの方々に活動して頂いています。

市民・事業者の活動・参加状況

- 市では、公園美化活動にご協力いただける団体を毎年募集し、協定を締結しています。
協定締結団体数は年々増加し、平成 24 年度は 19 団体となりました。



1-5 歴史や文化を大切にする [個別目標⑤]

目標の達成状況と現状

■ 環境指標の目標達成数: 設定なし

史跡や有形・無形の文化財は、先人のあゆみを伝える貴重な財産です。印西市には、歴史的、文化的な遺産が数多く分布しており、平成 24 年現在 48 件の指定文化財等を有しています。また、それらを取り巻くように湧水や巨樹・巨木林などの貴重な自然環境も残されています。

《 市内の指定文化財 》

区分	種類	件数	主な文化財
国指定	有形	5	建造物 宝珠院観音堂、泉福寺薬師堂、栄福寺薬師堂 彫刻 銅造不動明王立像(結縁寺)、木造薬師如来坐像ほか(松虫寺)
	記念物	1	天然記念物 木下貝層
県指定	有形	11	彫刻 木造毘沙門天及び両脇侍立像(多聞院)、 木造延命地藏菩薩坐像(泉倉寺) 他5件 工芸品 梵鐘(長楽寺)、鑄銅孔雀文磬(松虫寺)、龍腹寺の梵鐘 他1件
	民俗	5	有形 押付の水塚 無形 鳥見神社の獅子舞、武西の六座念仏の称念仏踊り、浦部の神楽 他1件
	記念物	1	天然記念物 将監のオニバス発生地
市指定	有形	15	建造物 弥陀一尊武蔵型板碑(観音寺)、弥陀三尊下総型板碑(光明寺) 他2件 彫刻 福聚院阿弥陀三尊立像、薬師如来立像(瀧水寺) 工芸品 鑄銅鰐口(竹袋観音堂)、曼荼羅掛軸(南陽院)、龍湖寺絵馬 他2件 古文書 吉岡家河岸関係文書 考古資料 常滑の大壺、 歴史資料 小金牧鹿狩資料「村小旗」、高札(五榜の揭示)
	民俗	3	無形 別所の獅子舞、いなざき獅子舞、八幡神社の獅子舞
	記念物	6	史跡 月影の井、上宿古墳、武西の百庚申塚、泉新田大木戸野馬堀遺跡 天然記念物 吉高の大桜、藤の木
国登録	有形	1	建造物 岩井家住宅主屋(旧武蔵屋店舗)



国指定重要文化財 栄福寺薬師堂
(昭和 29 年指定)



国指定天然記念物 木下貝層
(平成 14 年指定)

平成 20～24 年度 of 取組み・評価

■ 歴史文化財の保存

市では、文化財を保護・継承していくため、管理者や地域住民の協力を得て、指定文化財の清掃や調査・研究を行っています。平成 24 年度には仏像調査（17 体）や石造物分布調査及び悉皆調査を実施しました。また、萩原・鎌苅地区を中心に埋蔵文化財包蔵地の分布調査も実施しています。



仏像調査の様子

地域の歴史や文化を物語る祭礼や伝承などの無形文化財についても、調査・記録と保存を図っていく必要があります。市では、歴史民俗資料館が中心となって、師戸宗像神社大祭の映像記録や印旛沼の漁に関する聞き取り調査、その他無形民俗文化財の資料調査などを実施しており、報告書や展示会等で公開しています。

■ 巨樹・巨木林などの保全

市では、平成 22～23 年度に印西地区の巨樹・巨木林等調査を実施し、特に養生を要する樹木 14 本について専門家による診断を行いました。今後は印旛地区、本埜地区においても同様の調査・診断を実施するよう検討を行っていきます。

■ 歴史的文化的環境とのふれあい創出

平成 22 年 3 月の合併に伴い、旧村の指定文化財が印西市に移行されたため、市では新たなパンフレットを作成・配布し、文化財に関する普及啓発を図ってきました。また、現在は見学コースなどを載せたガイドマップの作成を検討しています。

印西ふるさと案内人協会が主催する毎年恒例の木下街道膝栗毛^{*}は、市民が地域の文化財や自然環境にふれあう良い機会を提供しています。市では、このようなイベントを実施する団体等に対して各種支援を行っています。

市民・事業者の活動・参加状況

- 木下街道膝栗毛では、毎年多くの市民が歴史探訪に参加しており、市民団体による恒例イベントとして定着しています。

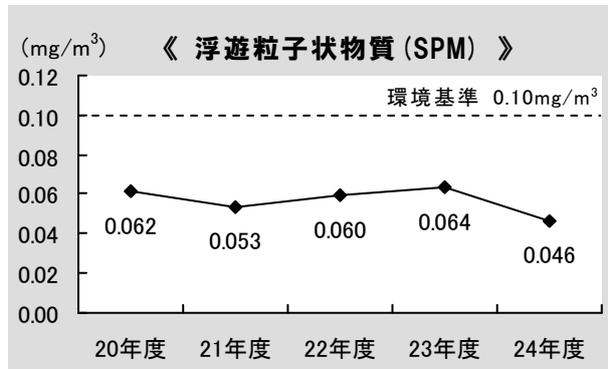
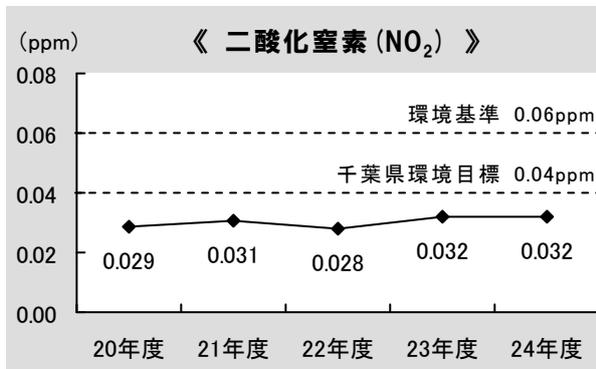
2 安心して生活できる “暮らしづくり”

2-1 空気をきれいにする [個別目標⑥]

目標の達成状況と現状

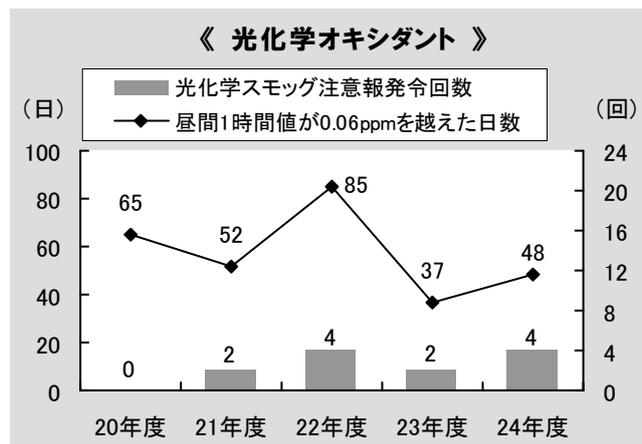
■ 環境指標の目標達成数: 2/2

環境指標	目標値	平成 24 年度	評価
二酸化窒素 (NO ₂) 濃度 (印西高花測定局)	0.04 ppm 以下 (千葉県環境目標値)	0.032 ppm	😊
浮遊粒子状物質 (SPM) 濃度 (印西高花測定局)	0.10 mg/m ³ 以下を維持 (環境基準)	0.046 mg/m ³	😊



市内では高花地区に設置されている一般環境大気測定局*で、大気質を常時監視しています。二酸化窒素と浮遊粒子状物質の測定値は横ばいで推移しており、いずれも目標値を達成しています。

ただし、常時監視を行っている大気汚染物質の中で、光化学オキシダント* (光化学スモッグ) だけは環境基準を達成しておらず、ほぼ毎年注意報が発令されています。



平成 20～24 年度 の取組み・評価

■ 大気汚染対策

市では、職員による環境保全行動を推進する「市内エコプラン」を定め、アイドリングストップ*などのエコドライブやノーカーデーの推進、低公害車*の導入等を通じて大気汚染の抑制に努めています。公用車の入れ替えは古い年式の車両から順次実施しており、この5年間でハイブリッド車 2 台、低燃費車 33 台を導入しました。

市民向けには「環境行動指針^{*}」を制定し、エコドライブの推進を呼び掛けているほか、毎年11月～1月に「アイドリングストップ等による大気汚染物質削減計画」を実施し、ホームページ等で市民への普及啓発に努めてきました。

工場や事業場に対しては、広報やホームページ等を通じて基準外焼却炉による焼却行為や野焼きを防止するための指導・周知を行っています。

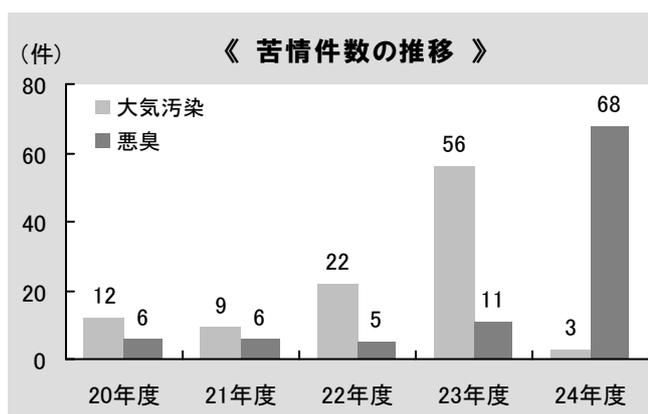
また、光化学スモッグ注意報の発令時には、防災無線、防災メール、教育機関等へのFAX等で光化学スモッグへの注意喚起を図っています。

■ 悪臭^{*}防止対策

市では、悪臭を発生させる施設の管理者に対処するよう指導を行っているほか、畜産業者等への定期的な立入りを実施しています。

また、野焼き対策として周辺市町村や農協との協働により啓発チラシを作成・配布したほか、定期的なパトロールも実施しています。

大気汚染と悪臭に関する苦情は増加傾向にあり、平成24年度には合わせて71件の苦情が寄せられました。平成23年度は放射線量、平成24年度は野焼きに関連する内容が多くなっています。



■ 監視・測定の実施

印西市内では、前述の高花測定局で千葉県が大気質を常時監視しているほか、平成24年度は市役所屋上と本榎支所を加えた計3ヶ所でダイオキシン類の調査を実施し、調査結果は県に報告しています。

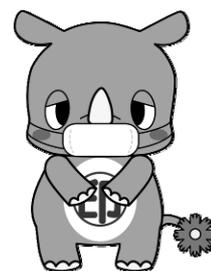
コラム ★ 微小粒子状物質 (PM2.5)

大気中に気体のように長期間浮遊しているばいじん、粉じん等の微粒子のうち、粒径2.5マイクロメートル以下のものを微小粒子状物質としてPM2.5と呼んでいます。

物の燃焼等により直接発生するほか、大気中での化学反応によって発生する等、発生のメカニズムについては解明されていない点も多くあります。

印西市内では印西高花測定局で測定されており、千葉県の「大気環境常時監視リアルタイム表示システム」で測定値を確認することができます。

ホームページ (<http://air.taiki.pref.chiba.lg.jp/>)



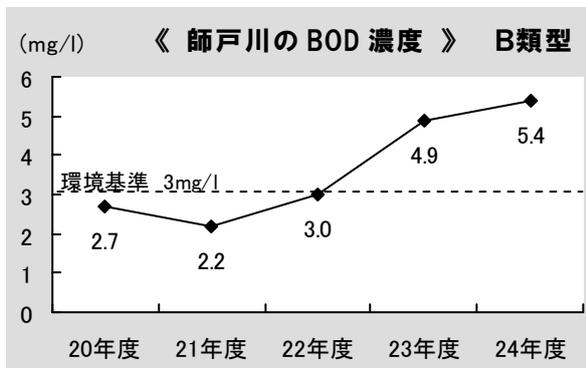
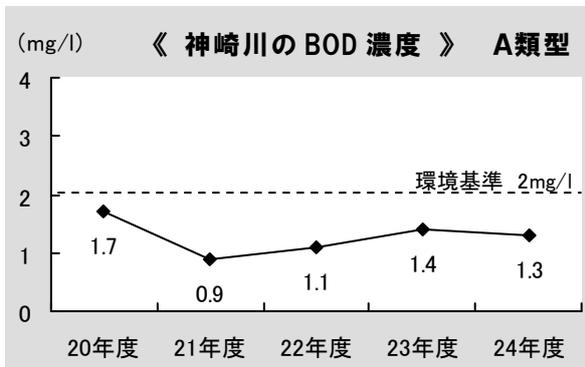
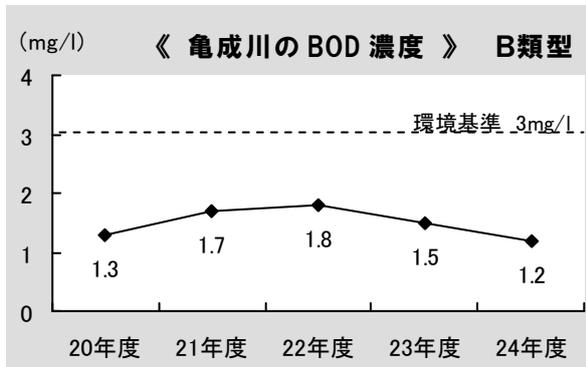
2-2 水や土をきれいにする [個別目標⑦]

目標の達成状況と現状

■ 環境指標の目標達成数:6/7

環境指標	目標値	平成 24 年度	評価
亀成川の BOD 濃度	3 mg/l 以下を維持 (環境基準)	1.2 mg/l	😊
神崎川の BOD 濃度	2 mg/l 以下を維持 (環境基準)	1.3 mg/l	😊
師戸川の BOD 濃度	3 mg/l 以下を維持 (環境基準)	5.4 mg/l	😞
下水道普及率 (処理区域内人口/行政人口)	現状より増やす ※合併後(H22年度)は 80.0%	80.8 %	😊
合併処理浄化槽普及率	現状より増やす ※合併後(H22年度)は 75.7%	79.2 %	😊
土壌の汚染に係る 環境基準の達成状況	全調査地点、全項目の 達成を維持	調査地点:3 地点 全項目の基準を達成	😊
地下水の環境基準の達成状況	全調査地点、全項目の 達成を維持	調査地点:5 地点 全項目の基準を達成	😊

※BOD 濃度の環境基準は、年間の日平均値の 75%水質値で評価します。



備考)

A類型: 水道2級(沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの)、水産1級(ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並び水産2級及び水産3級の水産生物用)、水浴及びB類型以下に掲げるもの。

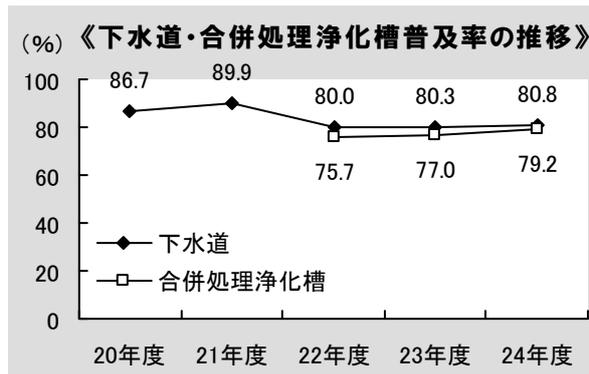
B類型: 水道3級(前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの)、水産2級(サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用)及びC類型以下に掲げるもの。

測定地点は資料編 P.19 を参照ください。

水質と土壌に関する環境指標は 7 項目設定されており、師戸川の BOD 濃度を除く 6 項目で目標値を達成しました。師戸川の BOD 濃度は近年悪化傾向にあり、平成 23 年度から 2 年連続で環境基準を上回りました。

下水道普及率は合併時に低下しましたが、その後は増加しており、80%以上の水準で推移しています。また、合併処理浄化槽の普及率も毎年向上しています。

土壌と地下水については、平成20年度以降全ての調査で環境基準を達成しました。



平成20～24年度の取組み・評価

■ 排水対策

市では、公共下水道の整備を推進しており、平成20年度から24年度までの5年間で処理区域を11.13ha拡大しました。また、下水道への接続率を向上するため、啓発物の配布や戸別訪問によるPRを行っています。

下水道処理区域外においては、合併処理浄化槽の設置に対する補助を行っており、平成20年度から24年度までの5年間で512基の補助を実施しました。

廃食用油の回収量は、回収場所の増設や広報等でのPRにより大幅に増加し、平成23年度から2年連続で5,000klを上回りました。

■ 土壌汚染・地下水対策

市では、土壌や地下水の汚染原因となる不法投棄を抑止するため、監視カメラやパトロールを強化するとともに、地権者や地元町内会の協力を得て撤去作業を行ってきました。

地下水の涵養対策として、歩道への透水性舗装^{*}の導入を推進しており、平成20年度から24年度までの施工面積は15,766m²となりました。

農業分野では、肥料による地下水汚染を抑制するため、ちばエコ農業^{*}をPRするとともに、環境負荷の小さい栽培方法に対する補助金事業を実施してきました。

■ 監視・測定の継続実施

市では、公共水域や地下水などの汚染を防止するため、定期的な監視・測定を実施しています。

市民・事業者の活動・参加状況

- 市民団体主催によるイベント等で、水質測定体験（パックテスト）等を実施しました。
- 手賀沼水環境保全協議会では、市民参加による河川・湧水調査を実施しました。
- 市と地元町内会等の協働により、不法投棄物の撤去や防止対策を実施しました。

2-3 騒音や振動などを低減する [個別目標⑧]

目標の達成状況と現状

■ 環境指標の目標達成数: 1/2

環境指標	年度	目標値	測定値	評価
道路交通騒音測定値	20	【幹線交通を担う道路に近接する空間】 昼 70 dB・夜 65 dB	県道千葉竜ヶ崎線高花一丁目地内 昼 69 dB・夜 66 dB	☹️
	21	【B 地域】 昼 65 dB・夜 60 dB	市道 00-005 号小林浅間三丁目地内 昼 70 dB・夜 63 dB	
	22	【幹線交通を担う道路に近接する空間】 昼 70 dB・夜 65 dB	県道千葉竜ヶ崎線木下 1401-45 付近 昼 73 dB・夜 73 dB	
	23	【幹線交通を担う道路に近接する空間】 昼 70 dB・夜 65 dB	県道千葉ニュータウン南環状線高花 2 丁目 6 地先 昼 66 dB・夜 59 dB	
	24	【幹線交通を担う道路に近接する空間】 昼 70 dB・夜 65 dB	県道千葉竜ヶ崎線木下東一丁目地先 昼 74 dB・夜 72 dB	
道路交通振動測定値	20	【第 1 種区域】 昼 65 dB・夜 60 dB	県道千葉竜ヶ崎線高花一丁目地内 昼 45 dB・夜 39 dB	😊
	21	【第 1 種区域】 昼 65 dB・夜 60 dB	市道 00-005 号小林浅間三丁目地内 昼 34 dB・夜 27 dB	
	22	【第 1 種区域】 昼 65 dB・夜 60 dB	県道千葉竜ヶ崎線木下 1401-45 付近 昼 53 dB・夜 45 dB	
	23	【第 1 種区域】 昼 65 dB・夜 60 dB	県道千葉ニュータウン南環状線高花 2 丁目 6 地先 昼 35 dB・夜 26 dB	
	24	—	—	

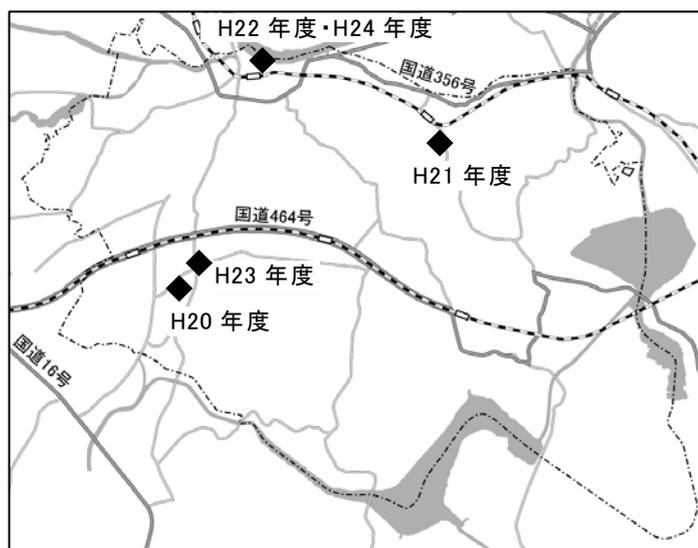
※騒音の地域の類型、振動の区域の類型については資料編 P.6 を参照ください。

市では、主要幹線道路において毎年 1 地点で道路交通騒音及び振動の実態調査を実施しています。

道路交通騒音は、平成 20 年度から 24 年度に測定した 5 地点のうち 3 地点で昼夜ともに環境基準を超過するなど、目標を達成できない箇所が多いことが分かりました。

一方、道路交通振動は平成 20 年度から平成 23 年度に測定した 4 地点全てで要請限度を下回っており、目標を達成している状況です。

《 道路交通騒音・振動の調査地点 》



平成 20～24 年度 of 取組み・評価

■ 自動車の騒音・振動対策

市では、例年実施している道路交通騒音測定に加えて、平成 24 年度からは面的評価※という新たな評価手法を導入しています。平成 24 年度は、一般国道 356 号、千葉竜ヶ崎線及び市道を対象とした評価を実施し、沿道住居 1,662 戸のうち 203 戸で昼夜とも環境基準を超過する可能性があることがわかりました。市では、このような状況を改善するため、関係機関に測定結果を報告し、対策の実施を依頼しています。

道路面の破損は騒音や振動の発生源となります。印西市では、道路の破損等に関する要望や相談が年間 180 件ほど寄せられ、そのうち 12 件前後が騒音・振動の苦情を伴うものです。市では、これらを受けて随時道路維持及び補修工事を実施しています。

■ 工場・事業場などからの騒音・振動対策

市では、事業所や商業施設、建設作業などで発生する騒音・振動を抑制するために、特定施設や特定建設作業の届出事業者に対して適宜指導を行っています。

また、近年問題になっている生活騒音問題について、ポスター等で市民への周知を図っています。

■ 光害※対策

市では、住環境や動植物等への影響を考慮したネオンサインなど、屋外照明の適正使用に関する啓発を行っています。

コラム ★ 残したい日本の音 100 選

身のまわりの「音」は、騒音とを感じるものも、心地よいと感じるものもあります。

環境省では、「全国各地で人々が地域のシンボルとして大切に、将来に残していきたいと願っている音の聞こえる環境（音風景）を広く公募し、音環境を保全する上で特に意義があると認められるもの」として「残したい“日本の音風景 100 選”」を選定しています。

日本の音風景の多様性がそのまま反映され、鳥の声や昆虫の羽音などの＜生き物の音＞から、川の流れや海の波などの＜自然の音＞、祭りや産業などの＜生活文化の音＞まで音源は多岐にわたります。それぞれがその地域固有の、後世に伝えたい大切な音風景です。

千葉県内では、佐原市の「樋橋の落水」や大多喜町の「麻綿原のヒメハルゼミ」などが選定されています。

身近な美しい音を探して市内を歩いてみると、新たな発見があるかもしれません。



2-4 有害化学物質による汚染を防ぐ [個別目標⑨]

目標の達成状況と現状

■ 環境指標の目標達成数: 4/4

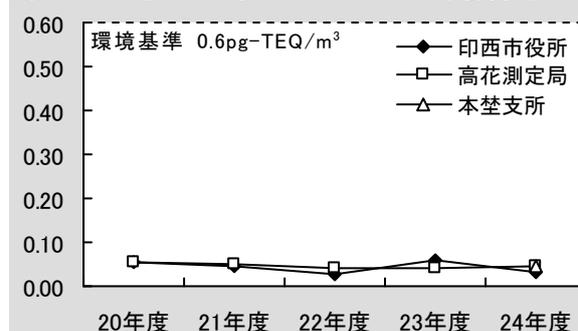
環境指標	目標値	年度	測定値	評価
ダイオキシン類 大気環境濃度	0.6 pg-TEQ/m ³ 以下を維持(環境基準)	24	印西市役所 0.031 pg-TEQ/m ³ 高花測定局 0.045 pg-TEQ/m ³ 本埜支所 0.046 pg-TEQ/m ³	😊
ダイオキシン類 水質環境濃度	1.0 pg-TEQ/l 以下を維持(環境基準)	20	東京電機大学 0.21 pg-TEQ/l	😊
		21	小林新田青年館 0.016 pg-TEQ/l	
		22	大森地先 0.046 pg-TEQ/l	
ダイオキシン類 土壌環境濃度	1000 pg-TEQ/g 以下を維持(環境基準)	20	印西地区環境整備事業組合 6.6 pg-TEQ/g	😊
		21	牧の原公園 0.47 pg-TEQ/g	
		22	平賀地区構造改善センター 0.91 pg-TEQ/g	
		23	滝野公園 0.84 pg-TEQ/g	
		24	木下小学校 0.036 pg-TEQ/g 大塚前公園 1.5 pg-TEQ/g	
印西クリーンセンター の煙突出口における ダイオキシン類測定 値(年平均値)	1 ng-TEQ/Nm ³ 以下を維持(排出基準)	24	1号炉 0.27 ng-TEQ/Nm ³ 2号炉 0.21 ng-TEQ/Nm ³	😊
	0.5 ng-TEQ/Nm ³ 以下を維持(排出基準)		3号炉 0.00105 ng-TEQ/Nm ³	

私たちの身のまわりには、合成樹脂、塗料、洗剤など国内で流通しているものだけでも数万種類の化学物質があり、中にはダイオキシン類のように人の健康や生態系に悪影響を及ぼすものもあります。

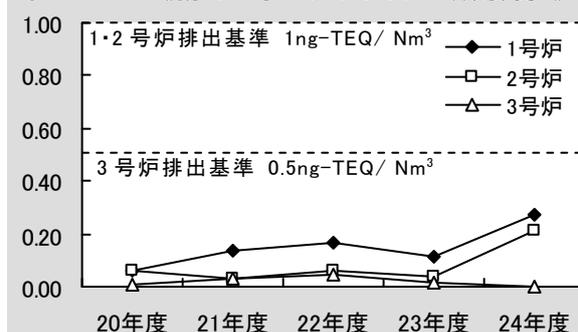
市では、そのような有害化学物質による影響を未然に防止するため、県や関係機関と連携して大気質、水質、土壌及び排出ガス中のダイオキシン類調査を継続的に実施しています。

その結果、印西市においては、平成 20 年度から 24 年度までの全調査で目標値を達成しました。

(pg-TEQ/m³) 《 大気中のダイオキシン類濃度 》



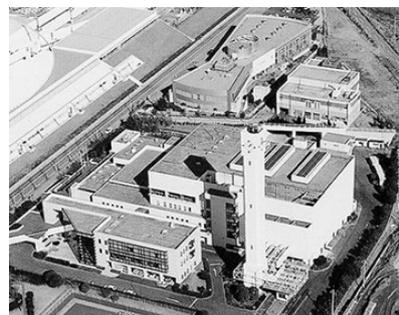
(ng-TEQ/Nm³) 《 排ガス中のダイオキシン類濃度 》



平成 20～24 年度 of 取組み・評価

■ 有害化学物質の排出防止対策

市では、環境中のダイオキシン類濃度を把握するため、県と連携して大気質、水質及び土壌中のダイオキシン類濃度を定期的に測定しています。また、印西クリーンセンターでは、印西地区環境整備事業組合が排出ガスの測定を実施しており、結果はホームページ等で公表しています。



印西クリーンセンター

公共施設の維持管理においては、除草剤を使用せず、殺虫剤の使用も最低限とするなど、化学物質の排出抑制に努めています。

■ 有害化学物質に関する情報の収集・提供

市では、広報等を通じて市民や事業者有害化学物質に関する情報提供を行っており、特に農薬散布の注意点についてはホームページも活用して周知に努めてきました。

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律※(PRTR法)」に基づく、印西市における平成 22 年度の化学物質届出排出量は約 4 t で移動量は約 1 t でした。なお、千葉県全体では排出量が 7,288.5t、移動量が 13,750.5t となっています。

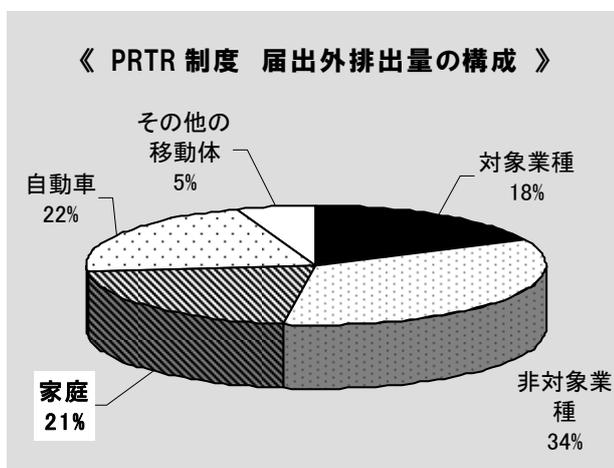
コラム ★ 化学物質を出しているのは誰？

環境省が公表している平成 23 年度の PRTR データの概要によると、化学物質の届出外排出量のうち、約 21%は家庭からの排出となっています。化学物質の排出は事業者の問題と考えてしまいがちですが、みなさんの家庭も無関係ではありません。

家庭からの化学物質の排出は、主に防虫剤や殺虫剤、トイレの防臭剤等の大気への排出、台所用や洗濯用洗剤の河川や海への排出などです。また、自動車の排気ガスからも化学物質は排出されています。

家庭内の化学物質について、使い方や用量が適切か、考えてみましょう。

出典：平成 23 年度 PRTR データの概要
環境省



2-5 エネルギーを有効に利用する [個別目標⑩]

目標の達成状況と現状

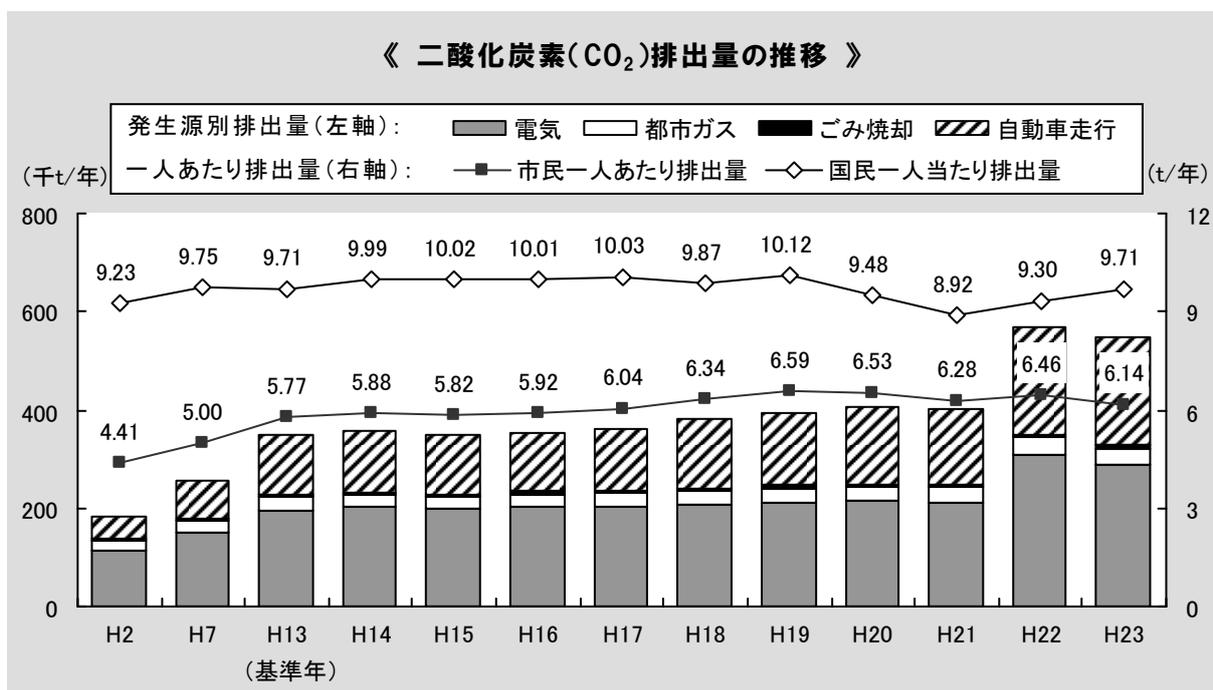
■ 環境指標の目標達成数: 1/3

環境指標	目標値	平成 24 年度	評価
一人当たりの二酸化炭素排出量	平成 13 年度レベル 5.77 t-CO ₂ /年 を維持	6.14 t-CO ₂ /年 (平成 23 年度)	☹️
太陽光発電システム設置基数 (補助金交付件数)	141 基 (印西市第 2 次基本計画)	766 基	😊
太陽熱温水器設置基数 (補助金交付件数)	50 基 (印西市第 2 次基本計画)	39 基	☹️

※一人当たりの二酸化炭素排出量は 1 年遅れて算出されるため、平成 23 年度の結果で評価しています。

平成 23 年度における市民一人当たりの二酸化炭素排出量は 6.14t となり、平成 13 年度時点の 5.77t より増加し、目標は達成できませんでした。

太陽光発電システムの補助件数は 766 基となり、目標を大幅に上回りましたが、太陽熱温水器は 39 基で目標の 50 基に届きませんでした。



備考 1) 二酸化炭素(CO₂)総排出量は、「電気」、「都市ガス」、「可燃ごみの焼却」、「自動車(市内保有台数)」から算出しています。なお、排出量算出方法の詳細は資料編 P.78 に示すとおりです。

備考 2) 国民一人当たりの二酸化炭素排出量は、国立環境研究所温室効果ガス*インベントリオフィスの日本の温室効果ガス排出量データ(1990~2010年)をもとに作成しています。

備考 3) グラフ内の基準年とは、環境基本計画における目標値の基準年度を表しています。

備考 4) 庁内エコプランの改訂に伴い、過去のデータも排出係数を改訂し、再計算しています。

備考 5) 平成 22 年度より、旧印旛村、旧本埜村の範囲を含む新印西市の値を計算しています。

平成 20～24 年度の実績・評価

■ 省資源・省エネルギーの推進

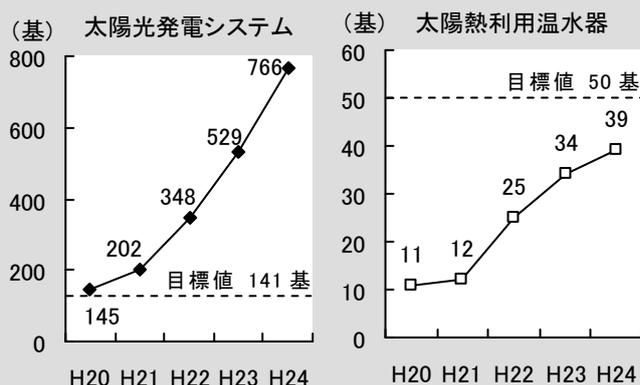
市では、率先して省資源・省エネルギーに取り組むため、庁内エコプランに基づき、各課への環境推進主任の配置、低公害車の導入、公共施設の改修及び新設時にエネルギーを有効に利用できる設備を導入するなど、省エネ化を推進しています。また、平成 23 年度からは公共施設においてグリーンカーテンを設置し、夏季の省エネに取り組みました。

また、市民への啓発として、環境推進市民会議の協力を得て、環境フェスタなどのイベントで省資源・省エネルギーに関する情報提供を行っています。あわせて環境家計簿の普及も推進しており、平成 24 年度の環境家計簿回収件数は 74 件で、環境家計簿を提出いただいたご家庭は、省エネ意識が高い結果となっています。

■ 新しいエネルギーの利用促進

市では、再生可能エネルギーの利用を促進するために、太陽光発電システムや太陽熱利用温水器の設置に対する補助を実施しています。特に太陽光発電システムは目標以上の設置基数となり、市内の住宅における普及に寄与することができました。

《 太陽光発電・太陽熱温水器設置補助累計基数 》



コラム ★ 育てよう、再生可能エネルギー

再生可能エネルギーとは、「エネルギー源として持続的に利用することができる」と認められるものとして、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中の熱その他の自然界に存する熱及びバイオマスが法律で規定されており、普及拡大を目指して平成 24 年 7 月 1 日から「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」が始まりました。

エネルギー自給率の向上、地球温暖化対策、日本の産業の育成を後押ししていくために、社会全体で再生可能エネルギーを育てていくことが必要です。



出典: なっとく! 再生可能エネルギー 経済産業省

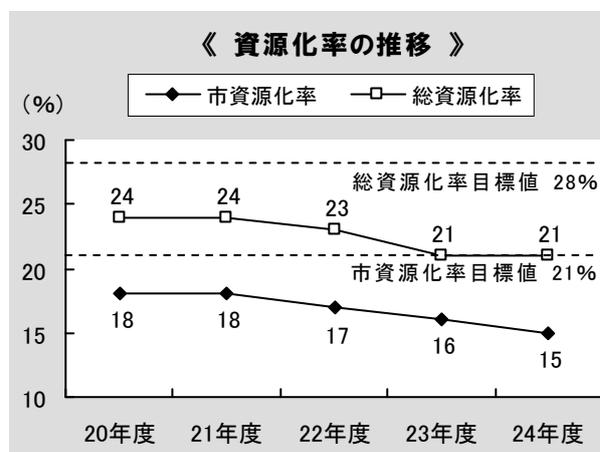
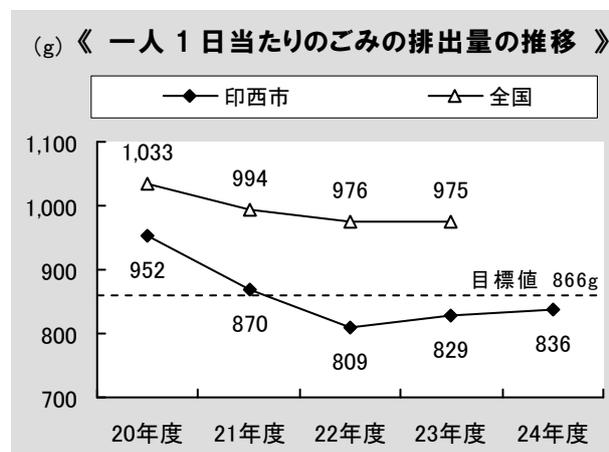
2-6 ごみの量を減らし、資源の循環を進める [個別目標⑪]

目標の達成状況と現状

■ 環境指標の目標達成数: 1/3

環境指標	目標値	平成 24 年度	評価
一人 1 日当たりのごみの排出量	866 g (印西市ごみ減量計画)	836 g	😊
市資源化率	21 % (印西市ごみ減量計画)	15 %	😞
総資源化率	28 % (印西市ごみ減量計画)	21 %	😞

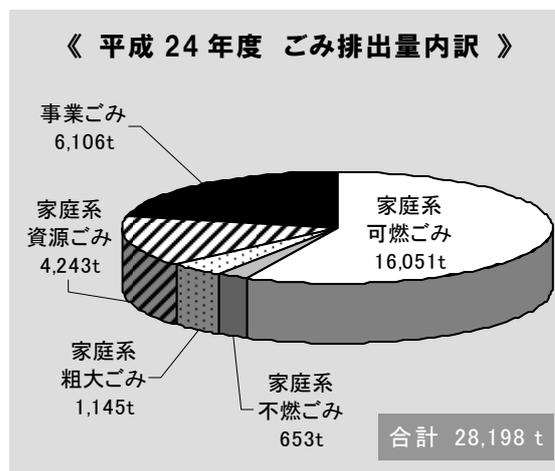
※改訂当時の印西市ごみ減量計画の目標値で評価しており、現行の第二次ごみ減量計画とは異なります。



平成 24 年度現在、市民一人 1 日当たりのごみ排出量は 836g となっており、平成 22 年度から 3 年連続で目標値を達成しています。

一方、資源化率は低下傾向にあり、目標値を達成できませんでした。

平成 24 年度のごみ排出量は 28,198t で、約 8 割が家庭ごみでした。特に家庭から排出される可燃ごみの割合が大きく全体の 5 割以上を占めています。



平成 20～24 年度 of 取組み・評価

■ ごみの排出抑制(リデュース)

市では、「印西市ごみ減量計画」に基づいて 3R (ごみの排出抑制[リデュース]、再利用[リユース]、資源化[リサイクル]) の取組みを推進しています。

ごみの排出抑制は3Rのうち最も優先的な取組みと言えます、印西市においては排出割合が大きい家庭ごみ減量化が重要となります。

市では、資源物とごみの分け方・出し方についてPRチラシやホームページ等で周知してきたほか、広報誌における「ごみの分別大辞典シリーズ」の連載や町内会を対象とした「ごみ減量化説明会」の開催にも積極的に取り組んでいます。

また、第2次印西市ごみ減量計画の一環として、粗大ごみ処理の有料化に関する検討を行っています。



ごみの分別に関する展示の様子

■ 再利用(リユース)・資源化(リサイクル)の推進

市では、広報紙やホームページに「リサイクル情報広場※」を掲載し、家庭で使われずに眠っている不用品の再利用を推進しています。

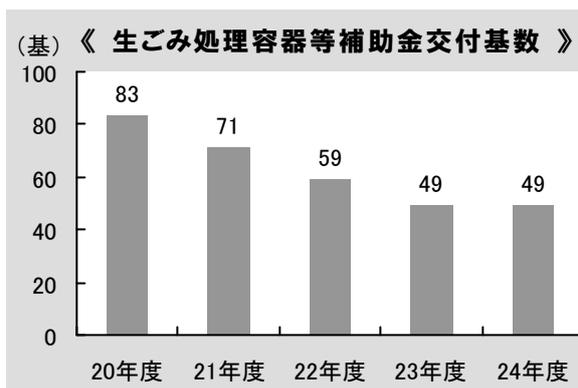
また、市民による自発的なリサイクルを支援するため、有価物集団回収事業※として有価物の回収を行った市民団体に奨励金を交付しています。

家庭におけるリサイクルを推進するため、生ごみ処理容器や生ごみ処理機の購入者に補助金を交付しています。また、平成24年度から剪定枝粉碎機と生ごみ処理機の貸し出しを実施しており、初年度の貸し出し実績は合わせて32件となりました。

農業分野では、印西市農業用廃プラスチック対策協議会の支援を通じ、農業用廃プラスチックの回収と適正処理を推進しています。

市民・事業者の活動・参加状況

- 平成24年度の剪定枝粉碎機貸し出し件数は19件で、これにより約2.5tの剪定枝が資源化されました。また、生ごみ処理機の貸し出し件数は13件でした。
- 平成24年度現在、有価物集団回収事業の登録団体数は114団体となり、2,008tの有価物が回収されました。
- 「リサイクル情報広場」では、5年間で133件の不用品交換取引が成立しました。
- 生ごみ処理容器や生ごみ処理機の購入者に対する補助金交付基数は、5年間で311基となりました。

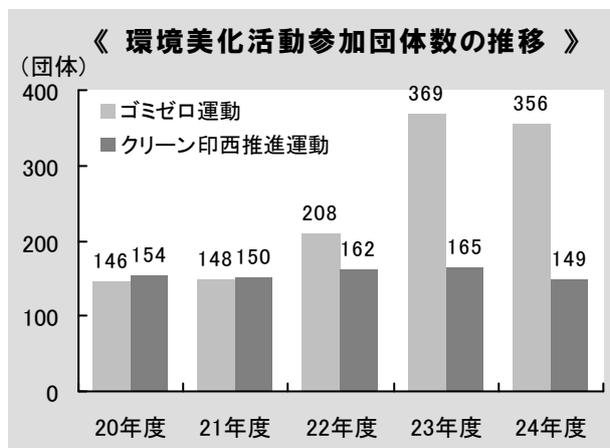
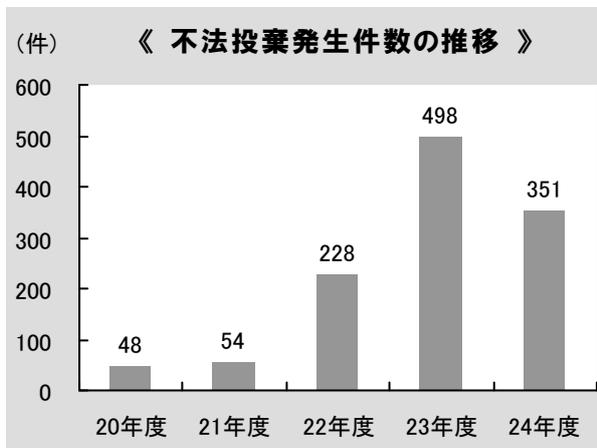


2-7 不法投棄やポイ捨てをなくす [個別目標⑫]

目標の達成状況と現状

■ 環境指標の目標達成数: 1/3

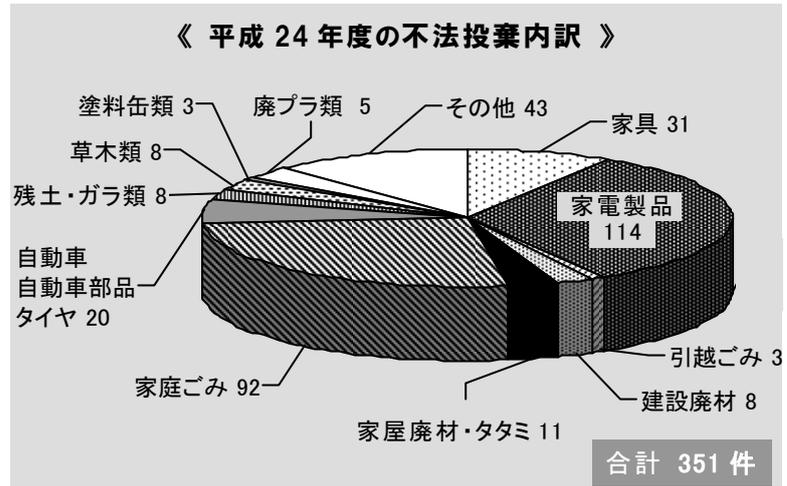
環境指標	目標値	平成 24 年度	評価
不法投棄件数	0 件 ※H23 年度は 498 件	351 件	☹️
「ゴミゼロ運動」参加団体数	現状より増やす ※H18 年度は 140 団体	春: 182 団体 秋: 174 団体	😊
「クリーン印西推進運動」登録団体数	現状より増やす ※H18 年度は 160 団体	149 団体	😞



市では不法投棄のパトロールを強化しており、その結果として不法投棄の発見数が増加しています。平成 24 年度の不法投棄確認件数は 351 件で、目標値である 0 件を達成することはできませんでした。

不法投棄物の内訳を見ると、家電製品、家庭ごみ、家具が多く、この 3 項目で全体の 7 割近くを占めていました。

環境美化活動への参加団体数は年による増減が大きく、平成 24 年度は前年度より減少してしまいましたが、参加者数は前年度を大幅に上回っており、市民の参加意識が向上していることがわかります。



平成 20～24 年度 of 取組み・評価

■ 不法投棄・ポイ捨ての防止

市では、不法投棄対策としてパトロールを強化しており、平成 22 年度からは監視カメラの導入も進めています。また、不法投棄されたごみ等を放置しておく、さらなる不法投棄を招いてしまう恐れがあるため、地権者や町内会の協力を得て、市と市民の協働により投棄物の撤去作業を行っています。

市民への情報提供や意識啓発にも継続的に取り組んでおり、広報紙やホームページを通じた PR 活動や不法投棄防止を呼び掛ける看板の貸し出し等を実施しています。不法投棄防止意識を共有し、地域ぐるみで監視の目を強化してゆくことが重要です。

歩行喫煙やポイ捨ての対策としては、平成 20 年度に「印西市歩行喫煙、ポイ捨て等防止条例^{*}」を施行し、指導員によるパトロールや指導を行っています。平成 24 年度の指導件数は 1,831 件で、特に悪質だった 4 件を過料処分としました。



移動式監視カメラ



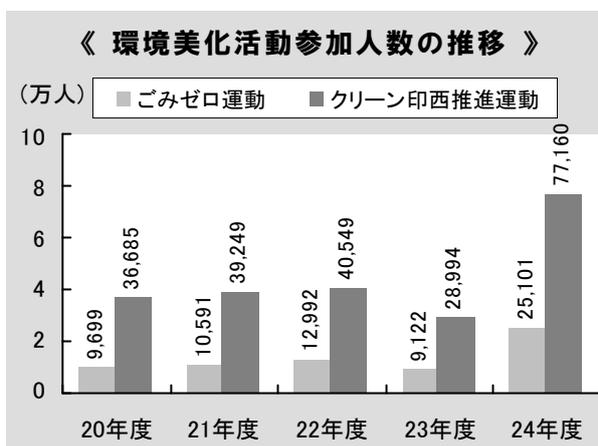
環境美化活動の様子

■ 環境美化活動の推進

市では、清掃活動を通じて市内のクリーン化と美化意識・参加意識の向上を図る「ゴミゼロ運動」や「クリーン印西推進運動」などを実施しています。参加者数は年々増加しており、平成 24 年度は延べ 102,261 名のみなさんにご協力いただきました。

市民・事業者の活動・参加状況

- 市と市民の協働による不法投棄物の撤去を進めており、平成 22 年度以降で 36 ヶ所の不法投棄物を撤去しました。
- ゴミゼロ運動とクリーン印西推進運動への参加者数は平成 20 年度から 24 年度までの 5 年間で延べ 290,142 名となりました。



3 みんなで環境を育てる “しくみづくり”

3-1 環境情報のネットワークをつくる [個別目標⑬]

目標の達成状況と現状

■ 環境指標の目標達成数: 1/1

環境指標	目標値	平成 24 年度	評価
環境情報の提供回数	24 回を継続	24 回	

市では、広報紙やホームページなどを活用して、環境基本計画や環境行動指針など環境に関する情報の提供に努めています。

環境情報の提供回数は、毎年 24 回を継続しており、目標を達成できました。

平成 20～24 年度の取組み・評価

■ 環境情報の収集・提供

市では、広報紙やホームページ等で環境情報を発信するとともに、環境フェスタなどのイベントを企画し、参加・協力を呼び掛けています。

図書館では、毎年環境をテーマにした展示企画を開催しています。平成 24 年度は印旛図書館で水をテーマにした資料展示を行いました。また、学校図書館においても環境に関する書籍を探しやすくするよう貸出方法を工夫するなど、環境教育の質を高める取組みを推進しています。

■ 環境情報の共有化促進

市では、環境家計簿の普及・啓発に努めており、環境推進市民会議が中心となってイベント等でPR活動を行ってきました。

また、市が取り組んでいる環境関連施策については、毎年その実施状況と成果を調査し、最新の環境情報とともに環境白書として公開しています。



環境家計簿をご提出いただいた方にはエコ診断表とエコバッグを差し上げています

市民・事業者の活動・参加状況

- 環境フェスタなどの環境関連イベントには、毎年多くの市民・団体が参加しました。

3-2 環境について学び、理解する〔個別目標⑭〕

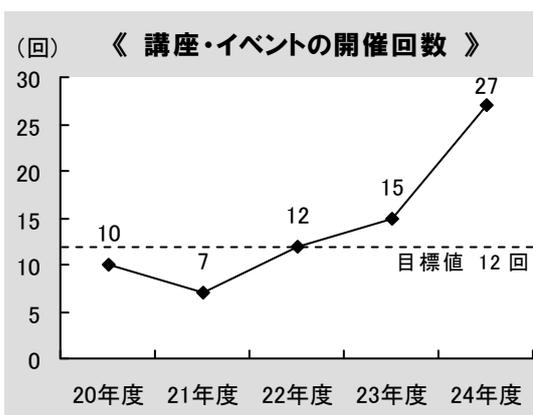
目標の達成状況と現状

■ 環境指標の目標達成数: 1/2

環境指標	目標値	平成24年度	評価
環境講座、環境イベントなどの開催回数	12回	27回	😊
こどもエコクラブ登録件数	7件	0件	😞

印西市では、環境講座や環境イベントに力を入れており、開催数は増加傾向にあります。平成24年度の開催数は27回で、平成22年度から3年連続で目標値を達成しました。

一方、こどもエコクラブの登録件数は増やすことができませんでした。平成23年度までは2件を維持していましたが、平成24年度は0件となり、目標値を達成できませんでした。



平成20～24年度の取組み・評価

■ 環境イベントなどの充実

印西市では、市民の環境意識を啓発するため、様々な環境関連イベントを実施・支援しています。

毎年実施している環境フェスタでは、環境に関する資料の展示・説明や紙芝居、スタンプラリーなどの、子どもも大人も楽しめる内容を目指しました。また、クリーンセンターなどの環境関連施設を対象とした見学会も開催しています。

公民館や歴史民族資料館、教育センター等でも、体験学習や企画展示、勉強会などを開催しています。エコ調理実習や力又一体験、登山、里山観察会、水族館見学など、毎年趣向を凝らして、楽しみながら環境を学べる機会の提供に努めてきました。



環境フェスタ会場の様子
(イオンモール)



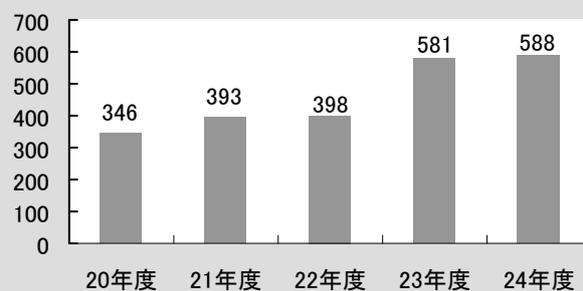
小林公民館の事業風景

■ 学習教材の充実、指導者の育成

学校教育に地域の教育力を活かす学校支援ボランティアへの登録者数は年々増加しており、平成 24 年度現在 588 名が登録されています。地域に根差した農業や自然環境に詳しいボランティアのみなさんには、「田んぼの先生」や「森の先生」として子どもたちの環境学習をサポートいただいています。

また、環境学習の指導者を目指すみなさんには、県が主催する環境学習指導者養成講座を紹介しています。

(人) 《ボランティアリスト登録数の推移》



■ 学校における環境教育・環境学習の推進

市内の小中学校では、社会科、技術・家庭科、特別活動、総合的な学習の時間等を使って積極的に環境学習を取り入れています。外部の人材を活用した授業も行っており、環境への理解を深めるとともに、自分の生活を見直すきっかけにもなっています。ビオトープを整備している学校も複数あります。



小倉台小学校のビオトープ

教育センターでは、学校の環境学習や社会教育を補充する形で、平成 17 年度から自然科学体験「里山観察会」を毎年実施しています。ここでは、森林インストラクターによる子どもたちや保護者への森林観察指導と木の葉・木の枝・木の実を使ったものづくりを実施しています。ライフステージに合わせた環境教育が提供できるよう心がけています。



里山観察会の様子

市民・事業者の活動・参加状況

- 公民館では、環境に関する生涯学習の機会としてさまざまな講座を開催しており、多数の参加をいただきました。
- 手賀沼流域フォーラムでは、印西地域企画として市民団体主催による様々なイベントが開催され、多数の参加をいただきました。

3-3 環境活動を進める [個別目標⑮]

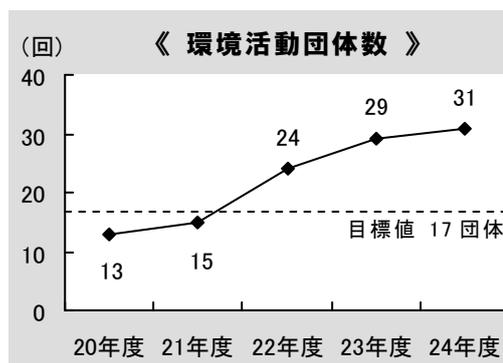
目標の達成状況と現状

■ 環境指標の目標達成数: 1/2

環境指標	目標値	平成24年度	評価
環境活動団体数	17 団体	31 団体	😊
「いんざい環境フェスタ」の来場者数	現状より増やす ※H18年度は 6,000 人	1,000 人	😞

環境活動団体数は、平成22年度に目標値を達成した後も増加しており、平成24年度には31団体となりました。

「いんざい環境フェスタ」の来場者数は、毎年6,000人規模を維持していましたが、平成24年度は天候の影響等で大幅に減少しました。



平成20～24年度の取組み・評価

■ 地域における環境活動の推進

町内会自治会連合会では、地域コミュニティの活性化を図るため、ゴミゼロ運動等の地域環境整備事業やコミュニティ醸成のための活動を実施しました。

また、印西市市民活動推進条例に基づいて、まちづくり活動を行う団体を支援する「公益信託印西市まちづくりファンド」から助成を受けている環境活動団体もあり、平成24年度は5つの市民団体が活動を行いました。長期にわたって事業を継続している団体もあり、市民活動の活性化が図られています。

■ パートナーシップの構築

市では、市民・事業者との協働を支える仕組みとして「環境推進市民会議」と「環境推進事業者会議」を設置しており、環境行政への意見や提言、環境白書の作成、環境行動指針の作成、環境家計簿の普及啓発、環境イベントへの出展など様々な取組みを推進しています。



環境推進市民会議

市民・事業者の活動・参加状況

- ゴミゼロ運動やクリーン印西推進運動などの環境美化活動に毎年多数の参加をいただきました。
- 民有地内における大規模な不法投棄物を、地元町内会等との協働により撤去しました。
- 環境推進市民会議と環境推進事業者会議を定期的に開催し、印西市の環境行政に関する意見交換を図ることができました。
- 環境推進市民会議が中心となって、いんざい環境フェスタへの出展や環境家計簿のPRを継続的に実施してきました。



ゴミゼロ運動の様子

コラム ★ 環境行動指針（市民編）を作成しました

印西市では、市民の皆様が環境負荷を低減するための手がかりとして「保存版 印西市環境行動指針（市民編）」を作成しています。

「保存版 印西市環境行動指針（市民編）」は環境推進市民会議が主体となって内容や構成の検討を重ね、作成したものです。

より良い環境を次世代に引き継ぐことができるよう「保存版 印西市環境行動指針（市民編）」をきっかけに、環境に対する意識を高め、日頃の行動を今一度見直してみてください。

なお、印西市環境行動指針は市のホームページからもダウンロードできます。

【問い合わせ先】

環境保全課 電話：0476-42-5111 内線 364、365

印西市ホームページ(<http://www.city.inzai.lg.jp/>)

トップページより、「暮らす」→「ごみ・環境・ペット」→「環境」を選択



保存版 環境行動指針の表紙には青い地球と印西市の風景をレイアウト